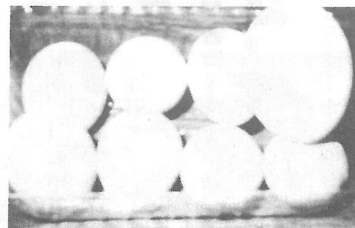




羽が特徴です

ウコッケイ 烏骨鶏

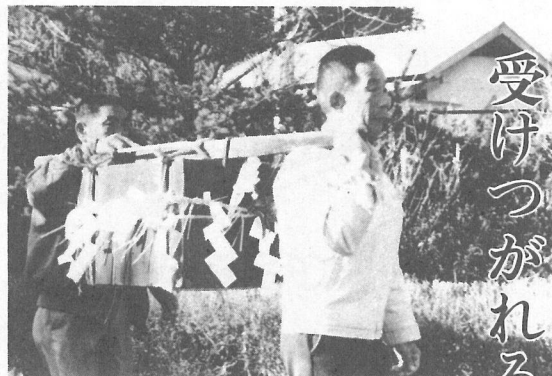


ウコッケイの卵 (右上は普通の卵)

鳥喰新田の市原恒さんの家族は、皆さん鳥が大好き。ニワトリ、インコ、キンケイなどを飼っています。昨年出入りの植木屋さんが「ヒナを育てるのがうまい」ということで、ウコッケイのつがい

をくれたそうです。純白のやわらかい羽毛が特徴で、半年後には卵を産み、その卵も既に親鳥となつて、3日に1個くらいの割合で卵を産んでいます。この卵、自然食プログラムを反映してか、高血圧に効くなどと一部では大変珍重されているそうです。

毎年1月28日、於幾地区では、大般若経の経文の下をくぐつて無病息災と豊作を祈願するという珍しい行事が行われています。この大般若経は、古く明治時代以前から長寿院に保存されているもので、金六百巻が桐の箱12個に納められています。観音寺の住職(長寿院兼務)に拝んでもらったあと、前巻(1〜50巻)と後巻(251〜300巻)の入った箱を地元の人が



受けつがれる伝統行事 於幾地区



桐の箱に納められた経文

無病息災と 豊作を祈る

担ぎ、各戸を回ります。待ちかねていた家の人は、無病息災と豊作を祈つて担がれた経文の入った箱の下をくぐるというものです。



担がれた経文の下をくぐり、一年の健康を祈ります。

文芸

短歌

新潟のトラック吾が店に来ぬ
屋根に積雪まぶしく照らし

向後 泰治

木枯らしに落ちし乾反葉からからと
吹かれてたまる道の窪みに

池田 春江

病みしまま職去り行きし友のこと
病ひ持つ身となりて思ふも

掛川 友代

言葉なきことばで送る母ならむ
意のまま嫁ぐ娘にはあれども

斉藤 要

古稀となれど叶ふことなら恙なく
二十一世紀迎へてみまし

秋葉 とく

凍て付きし深夜の空は沓え渡り
上弦の月しづけく照れり

宇井 ちい

作業衣に洗剤の香り匂ひるて
仕事初めの機械工場

大場 和可

それぞれに作りし紙風手にしたる
園児を降しバスは過ぎゆく

斉藤 秀男

神屋を禊するかに裸木の
大き公孫樹は空つきて立つ

北田 ふじ